

## <今日の説教のポイント 出エジプト記 10 章>

### 1 ファラオがかたくなになるのは神様のせい？

出エジプト記前半の最大の疑問は、ファラオがかたくなになるのは彼自身のせいなのか、それとも神様に責任があるのかという問いです。今日の箇所でも主はモーセに、「**ファラオのもとに行きなさい。彼とその家臣の心を頑迷にしたのは、わたし自身である**」(10:1、20,27 も)とされています。神様はモーセに務めを託された最初からこのように言われています(4:21)。神様がファラオの心をかたくなにされたなら、ファラオがかたくなになったことの責任は無いように思えます。しかし一方で、「ファラオがかたくなになった」とはつきりと記されている箇所も沢山出て来ます(7:13, 22、8:11, 15, 28、9:7, 12, 35)。どういうことでしょうか？

### 2 私たちは神様のロボットではない。気づき、感謝して向き変る！

10 の災いは、神様がモーセをファラオの所に警告しに遣わされて起こされたのにファラオが心をかたくなにする場合と、警告なしに災いを起される場合があります。後者は前者の後です。今日の 10 章の二つの場合もそうです。神様が、「**もし、あなたがわたしの民を去らせることを拒み続けるならば、(災いを与える)**」(10:4)とされているがその災いを与えられたのに、結局、心をかたくなにしたので(10:20)、警告なしに続いて暗闇の災いを与えられたのです。神様がファラオの心をかたくなにされたのではなく、警告して止めるチャンスを与えられたのにファラオは続けた、その時さらに災いを与えて気づかせようとして下さったのです。聖書の神様は、ファラオがロボットではなく、自ら気づいて神様に聞き従って生きることを喜ぶ者となることを望んでおられるのです。人間を最初に造られた時からそうです(アダムとエバに対し、また、カインへの警告においても：創世記 4:6-7)。しかし、私たちの罪(神様への背き、かたくなさ)は手強く、その罪から私たちを解放して下さるのも神様であったのです(イエス・キリストによって。感謝！ローマの信徒への手紙 1:20-23 → 3:21-26)。第 9 の災いで、神様無しに暗闇の中を自力で歩むのか、神の光の中を歩むのか(「闇もあなたと比べれば闇とは言えない」詩編 139:11-12)、と問われていることに注目！(10:22-23)。